

2024年1月～2024年6月の観光動向

- 町内の施設入込客数は対前年比 112.5%と増加。特に、富士山エリアが前年と比べて大きく増加。

●施設入込客の動向

- 2024年1月から2024年6月の施設入込調査データを集計すると、延べ167万人の旅行者が富士河口湖町の観光施設を訪れていることがわかります（表1）。エリア別にみると、河口湖北エリアが64.5万人と最も多く、次いで西湖エリアが35万人でした。また、河口湖南エリア（33.6万人）、富士山エリア（32.6万人）が続き、精進湖・本栖湖エリアへの入込客数は2万人でした。
- エリア別の施設入込客数の対前年比でみると、すべてのエリアで増加しており、全体では112.5%と増加しました。特に、富士山エリアが128.7%と最も大きく増加しています（表1）。
- エリア別のシェアをみると、2024年は河口湖北エリアがもっとも高く、4割前後を記録しています。1,2月は南北河口湖エリアで7割近くになっている一方、気温が高くなるにつれ西湖および精進湖・本栖湖エリアのシェアが高まっています。2023年と比較すると、エリア別のシェアの偏りが落ち着き、特に、富士山エリアと西湖エリアのシェアが高まっています（図1、図2）。
- この集計にはイベントの入込客数は含まれていませんのでご注意ください。

表1 エリア別施設入込客数（延べ人数）

単位：千人

	河口湖北	河口湖南	富士山	西湖	精進湖・ 本栖湖	エリア計
1月	75.9	49.6	28.2	29.1	0.9	183.7
2月	73.9	45.3	30.1	32.5	0.4	182.2
3月	117.1	59.2	70.1	52.5	2.7	301.5
4月	128.6	64.1	74.2	71.0	5.4	343.4
5月	118.5	67.5	67.5	92.6	6.7	352.7
6月	131.8	50.7	56.0	72.9	4.7	316.1
2024年計	645.9	336.4	326.2	350.5	20.8	1,679.6
2023年計	622.4	292.5	253.3	296.4	20.2	1,492.4
対前年比	103.8%	115.0%	128.7%	118.2%	102.8%	112.5%

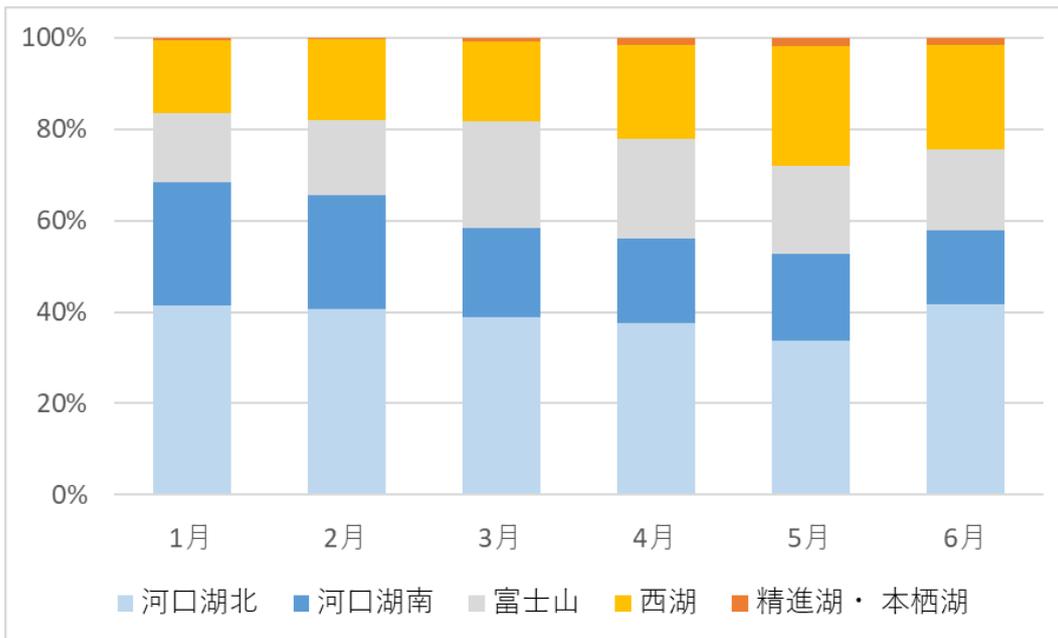


図1 エリア別施設入込客の割合 (2024年)

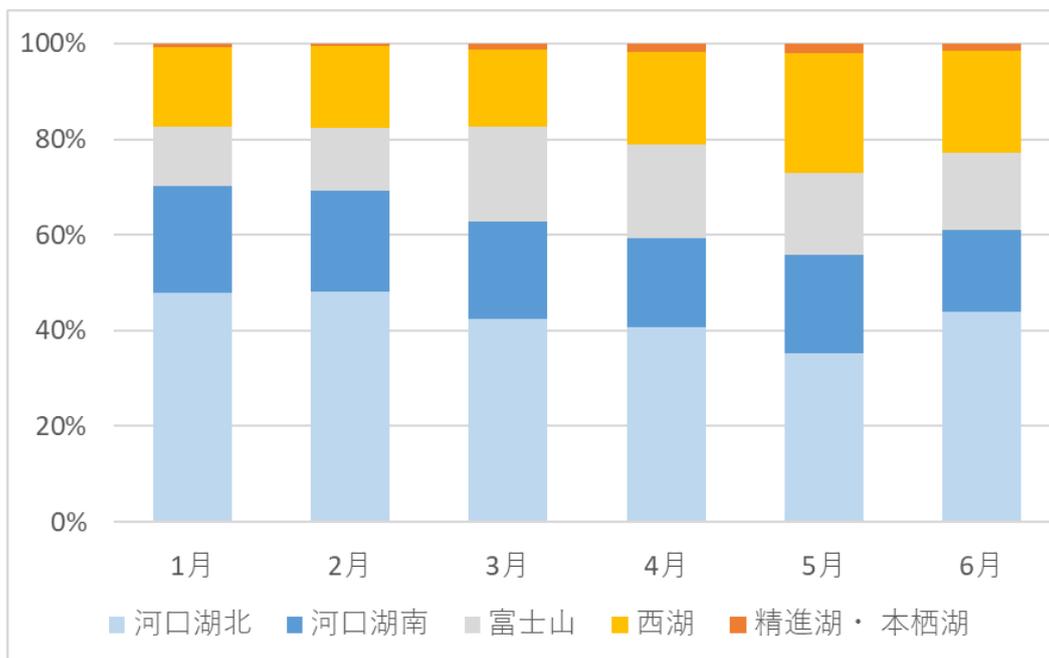


図2 エリア別施設入込客の割合 (2023年)

●観光実態調査からみる富士河口湖町のインバウンド観光消費動向

- ・当町では毎年7月と11月の休日に観光実態調査（奇数年は観光ニーズ調査、偶数年は観光消費調査を併せて実施）をおこなっています。調査からわかる富士河口湖町の観光動向をお知らせします。
- ・2024年7月は訪日外国人観光客数が単月として過去最高を記録したことから、今号では、2024年夏季調査における国外旅行者の観光消費動向に着目します。ただし、これらはあくまでも観光の一時点を切り取ったものにすぎないため、その点にご留意ください。

<調査概要（2024年夏季調査版）>

- ・調査日時：2024年7月6日（土）11:00～15:30、7月7日（日）9:00～12:00
- ・調査項目：性別、年代、居住地、同行者、同行者数、旅行目的、来町回数、前回の来訪時期、滞在期間、交通手段、立ち寄り地点、支払い方法、町内の旅行支出、自由回答
- ・調査員：12名（東洋大学国際観光学部生他）
- ・調査地点：河口湖駅、大石公園、道の駅かつやま、音楽と森の美術館、西湖いやしの里根場、富士山パノラマロープウェイ
- ・回収数：国内旅行者 117 票、国外旅行者 184 票

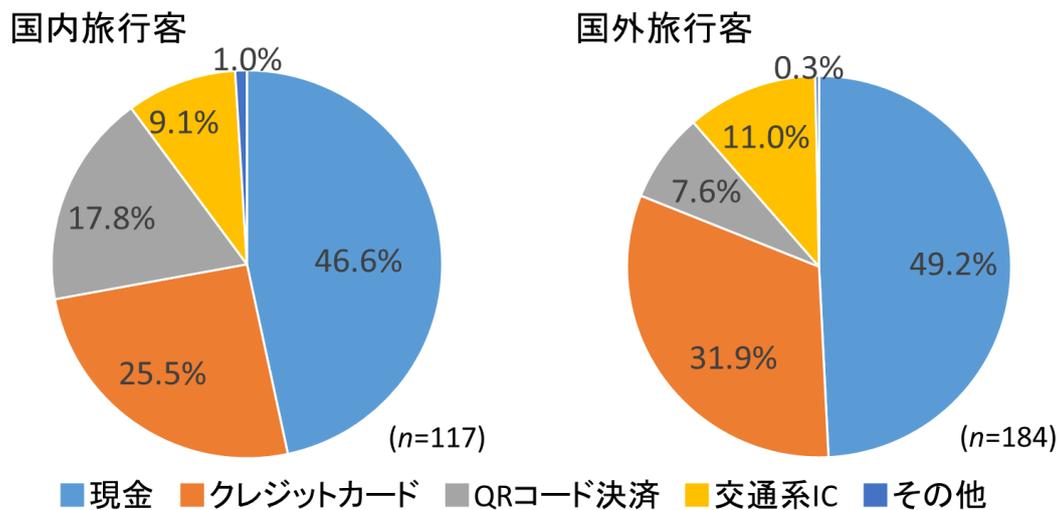


図3 決済方法別割合（複数回答）

- ・町内で使用した決済方法について、現金（国内旅行客：46.6%、国外旅行客：49.2%）が最も多いことがわかります（図3）。ただし、これはあくまでも結果であって、旅行者の支払いたい方法ではありません。そこで希望する支払方法を尋ねたところ、多い順にクレジットカード（15名）、Wechat pay/Ali pay（15名）、QRコード決済（6名）であり、今後も増加するインバウンド観光需要への対応としてこれらの決済サービスの拡充が求められそうです。

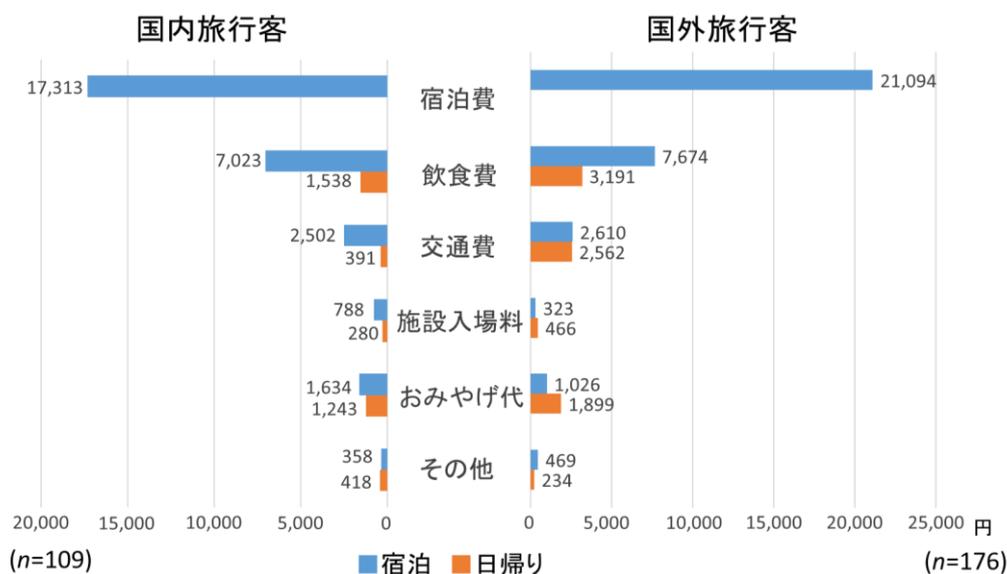


図4 滞在期間別の観光消費単価（円/人）

- ・参考として国内旅行者との比較ができるように宿泊者と日帰り旅行者の町内の観光消費単価を示す図を作成しました（図4）。
- ・宿泊費と飲食費、交通費はいずれもインバウンド観光消費が国内旅行者による支出を上回る結果を示しました。特に、国外旅行者は日帰り旅行であっても飲食費と交通費への支出が多い傾向であることが分かります。当町では飲食施設不足が課題として指摘されてますが、近年は施設数が増加傾向であり、また多国籍料理の提供が増えております。実際、10年前の同じ消費調査データでは日帰り旅行者の飲食費は1,135円であったことから、倍以上となりました。
- ・交通費には、主に河口湖駅と大石公園を結ぶ周遊バス、パノラマロープウェイ、遊覧船、レンタサイクルを含んでおり、インバウンド観光旅行者によるこれらの利用が多いことを反映していることが考えられます。
- ・おみやげ代に関しては、日帰りと宿泊者の差が少なく、またインバウンド観光旅行者の支出が少ないことが分かります。当町の近くに国際拠点空港が立地しておらず、東西いずれからのアクセスであっても当町は立ち寄り観光地としての性格を有しています。インバウンド観光消費といえば化粧品等の爆買いに注目されがちですが、これは大都市圏を中心とした消費特性です。大都市圏とは異なる、地域産品の活用や観光体験と連動した観光商品メニューの開発が有効であると考えられます。